

## メアブッシュ市訪問記

「Ich freue mich, Sie wieder zu sehen. (再びお会いできて嬉しいです)」



2010年に国際友好都市提携を結んだドイツ・メアブッシュ市を、土井市長が就任後初めて訪問しました。期間は、9月27日から10月1日までの5日間です。

また、文部科学省指定のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に認定されている府立四條畷高等学校長ら2人も、教育分野における国際交流の一層の進展をめざし、メアブッシュ市のギムナジウム(中高一貫校)と交流について具体的な協議

を行うため、今回の訪独に同行しました。

28日(日曜日)の午前中は、市内ビューダリヒ地区の古教会塔、市役所の戸籍管理所、ビューダリヒ地区墓地、学校と市民が共用で利用できる市営屋内温水プール、隣町のデュッセルドルフ市の日本人学校の学校祭を訪れました。

お昼には、メアブッシュ市の大きなイベントのひとつである「Sonnenblumensonntag(ひまわりの日曜日)」の会場へ向かいました。

ドイツには、閉店法という法律があり、通常日曜日にお店を営業することができません。ただし、州によって年に数回「オープンサンデー」といって、お店を開けてもいい日が決まっています。9月28日は、そのオープンサンデーで、ひまわりの日曜日、9月のオープンサンデーに合わせて毎年行われているイベントです。



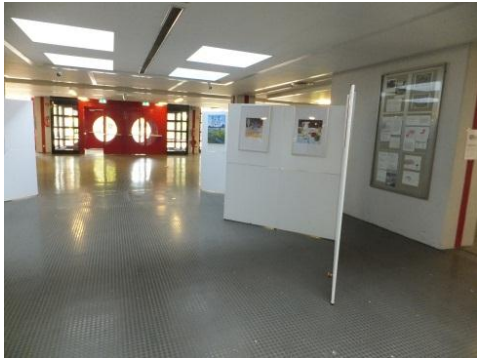
会場ではロデオなどの遊具、自動車、家電製品の展示販売、メアブッシュ市内にお住いの日本人の方(メアブッシュ市近郊には日本企業があり、多くの日本人が暮らしています)や、両市の交流を支援する市民グループ「メアブッシュ=四條畷友好都市友の会」などによる日本文化の紹介スタンドなどが設置され、大勢の来場者でにぎわっていました。



29日(月曜日)は、保育園「宝島」、市立マルティヌス小学校、市民スポーツ施設、ギムナジウム、市エコセンター(粗大ごみ集積場)、建設局の施設などを視察しました。

最初に訪れた保育園「宝島」は、8月に開設されたばかりで、最新の設備が施されており、ICタグによる出退管理、指づめ防止ドア、ストレスをためないようにリラックスする部屋、防音対策など設備が充実していました。

マルティヌス小学校では、児童が玄関ホールへ集まり、



歌で出迎えてくれました。小学校は、1年生から4年生の児童 323 人が学び、授業は午前 8 時 15 分から始まり午後 1 時過ぎに終わるそうです。

午前中には「朝食休憩」の時間が設けられており、遊びに教室外に行く児童や、廊下におかれた椅子に座って牛乳やジュースを飲んでいたりする児童が見られました。

続いて訪れたギムナジウム(中高一貫校)では、日本でいう小学校 5 年生から高校 3 年生までが学んでいます。

1 階の玄関ホールには、絵画交流の一環で送付した本市の子どもたちの絵画が展示されています。2 階の図書館は、保護者の方が図書貸し出しの事務をしており、市民も自由に利用できるそうです。

30 日(火曜日)は、市内オステラート駅からドイツバーン(ドイツ国鉄)で、鉄路 30 数分のケルン市へ移動しました。列車は広く、自転車を持って乗り込む人や、ベビーカーを押す人にとっても快適な空間でした。

ケルン市内視察後、メアブッシュ市立図書館で、市長から図書館長に本市観光大使の谷口智則さんが描かれた絵画及び絵本が手渡されるとともに、「メアブッシュ＝四條畷友好都市友の会」との歓談が行われました。



10 月 1 日(水曜日)の最終日には、メアブッシュ市長公舎において、メアブッシュ市にある新聞社「ライニッシュュポスト」の記者による取材が行われたのち、ガルツヴァイラー褐炭採掘場を視察し、我々は 5 日間の行程を無事に終え、帰国しました。

国際友好都市提携が始まり、早や 4 年目を迎え、両市の「メアブッシュ＝四條畷友好都市友の会」「メアブッシュ交流サポーター」をはじめ「大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館」「大阪日独協会」の協力を得て、地道ではありますが、ドイツを、メアブッシュを、知っていただく機会や場所の提供に努めてまいりました。

メアブッシュ市の小学校と本市小学校の絵画交流から始まった交流も、今回訪独し、協議したことにより、四條畷高校とギムナジウムの「スカイプ交流」に発展するとともに、双方が市制 45 周年を迎える平成 27 年の夏には、四條畷高校の生徒のホームステイの実現に向けた協議が進められることとなりました。

まだまだ交流は端緒ですが、年を重ねるたびに少しずつ実が付いてきたようです。

今、できることを大切に積み重ねてまいりますので、市民皆さまのご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。